



GORDON
TRAINING
INTERNATIONAL

The Graduate Connection

for Leader Effectiveness Training (L.E.T.)

A monthly refresher for graduates from Gordon Training International

自分でやるのか、グループの助けを得て やるのか⑩

Date: April 10, 2022 | BY Dr. Thomas Gordon

(L.E.T. book からの引用)

誰が責任者か？

多くのリーダーは、マネジメント・チームを育成するというアイデアに反対します。なぜならリーダーは、最終的にワーク・グループが成功するか否かに、全責任を負わなければならぬと感じているからです。そのため、すべての決定を自ら行い指示しなければならないと信じています。

フォーマルな組織では、リーダーはワーク・グループがどのようにパフォーマンスを出すかの責任を当然負っています。私としては「責任」というよりは「説明責任」という表現をする方が好みではあります。もちろん、ワーク・グループが組織のニーズを満たすために十分なパフォーマンスができていなければ、リーダーは全責任をグループ・メンバーに押しつけて、上司から許してもらおうなどということはできません。説明責任を負っているのはあくまでもリーダーであり、グループのメンバーではありません。

元大統領ハリー・トルーマンの卓上の置物には「責任は俺がとる」と書かれていましたが、これはすべてのリーダーに当てはまる表現です。リーダーは率いるグループの説明責任を引き受けなければなりません。しかし、リーダーがグループ・メンバーの責任を負うことは、本当の意味ではできません。各メンバーそれぞれが、実際には責任を負わなければ

ばならないのです。